

《担当者名》 教授 / 古市 保志furuichi@ 教授 / 長澤 敏行nagasawa@ 准教授 / 門 貴司kado@
 講師 / 森 真理marichan@ 講師 / 加藤 幸紀satsuki@ 助教 / 清水 伸太郎sshimizu@
 助教 / 部 佳奈子shitomi@ 助教 / 佐藤 幸平kohey@
 非常勤講師 / 河合 治 非常勤講師 / 富岡 純 非常勤講師 / 伊藤 泰城
 非常勤講師 / 藤原 純 非常勤講師 / 湯本 泰弘 非常勤講師 / 石井 克枝
 非常勤講師 / 上與那原 朝秀 非常勤講師 / 伊藤 大輔 非常勤講師 / 小松 寿明
 非常勤講師 / 市岡 勇輝 非常勤講師 / 坂本 渉

【概要】

歯周治療学講義の理解を深め、臨床における適切な歯周治療実践のために、マネキンを用いた実習用模型によるシミュレーションシステムとマルチメディアシステムを用いて、歯周治療法の基本的治療術式について、使用器具・器材・材料の取り扱い・使用方法から学ぶ。

【学修目標】

- 歯周疾患の診査法を説明する。
- 歯周疾患に関連したエックス線写真読影法を説明する。
- 治療計画の立案を説明する。
- 各種口腔清掃指導法を説明する。
- モチベーションを説明する。
- スケーリング・ルートプレーニングを説明する。
- スケーラーの研磨を説明する。
- 歯肉切除術を説明する。
- フラップ手術を説明する。
- 咬合診査法を説明する。
- 咬合調整法を説明する。
- 暫間固定法を説明する。
- PMTCを説明する。
- 歯周病検査を行い、歯周病を診断する。
- 患者の病態に応じた歯周治療計画を立案する。
- 歯周治療の流れに沿って各種治療法を選択し、実施する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	実習器具の点検 X線写真の診査 天然歯の植立	歯周組織を中心とした、エックス線写真を読影する。 (E-3-1)- 、E-3-2)-) (F-3-3)-) (E-3-2)-)	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 森 真理 加藤 幸紀 清水 伸太郎 部 佳奈子 佐藤 幸平 非常勤講師
2	口腔内診査 1. 歯肉炎症の診査 2. 歯石の診査 3. 歯周ポケットの診査 4. 動揺度の診査 5. 付着歯肉・小帯・口腔前庭の診査 6. 根分岐部病変の診査	歯周疾患の進行の程度と原因を把握するための診査法を学ぶ。 (E-3-3)-(3)-) (F-3-3)-)	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 森 真理 加藤 幸紀 清水 伸太郎 部 佳奈子 佐藤 幸平 非常勤講師
3	口腔清掃指導 1. プラーク付着状態の診査 2.モチベーション 3. プラークコントロール 歯周治療計画の立案	プラーク付着状態の診査について理解するにはその方法だけでなく、その意義を把握することが重要なことを理解する。また、歯周治療の成功の鍵となる口腔衛生管理のモチベーションに必要であること、また再評価時やメンテナンス時の検査においても必要で	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 森 真理 加藤 幸紀

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		あることを理解する。 位相差顕微鏡によるプラークの観察で細菌の形態や運動性を観察し、プラーク細菌の理解を深める。また、この方法が患者にプラークコントロールの動機づけを行ううえで有効であることを学ぶ。 (E-3-2)-、E-3-3)-(3)-) 歯周治療計画の立案に必要な知識を身につける。 (E-3-3)-(3)-) (F-3-3)-)	清水 伸太郎 部 佳奈子 佐藤 幸平 非常勤講師
4	口腔清掃指導 1. ブラッシング1週間停止後の歯周組織の診査 2. プラークコントロール	ブラッシングを1週間停止した時の歯肉の状態、ポケット、プラーク付着を診査する。 臨床でブラッシング指導ができるよう、患者へのモチベーション確立も含め、さまざまな患者を想定し、手用歯ブラシ、電動歯ブラシ、及び補助的清掃用具を用いた適切なブラッシング指導について考察する。 (E-3-3)-(3)-) (F-3-3)-)	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 森 真理 加藤 幸紀 清水 伸太郎 部 佳奈子 佐藤 幸平 非常勤講師
5	歯周プローピング深さの測定 1. 歯周ポケットの診査 2. 動揺度の診査 3. 根分岐部病変の診査	PCT顎模型をマネキンにつけ歯周プローピング深さの測定を行う。 (E-3-3)-(3)-) (F-3-3)-)	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 森 真理 加藤 幸紀 清水 伸太郎 部 佳奈子 佐藤 幸平 非常勤講師
6 { 7	スケーリング・ルートプレーニング スケーラーの研磨 PMTC	PCT顎模型をマネキンにつけスケーリング・ルートプレーニングの実習を行う。 スケーラーの研磨方法を習得する。 技工歯に付着している歯石の観察と除去を行う。 PCT顎模型をマネキンにつけPMTCの実習を行う。 (E-3-3)-(3)-) (F-3-3)-)	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 森 真理 加藤 幸紀 清水 伸太郎 部 佳奈子 佐藤 幸平 非常勤講師
8 { 9	咬合の診査 1. 中心咬合位の診査 2. 側方運動の診査 3. 前方運動の診査 咬合調整 1. 中心咬合位での早期接触部の除去 2. 側方運動時の咬頭干渉の除去 3. 前方運動時の咬頭干渉の除去 暫間固定	外傷性咬合の診査法を理解する。 早期接触部、咬頭干渉部の選択削合の方法を実習する。 エナメルボンディングシステムによる暫間固定法を実習する。 (E-3-3)-(3)-) (F-3-3)-)	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 森 真理 加藤 幸紀 清水 伸太郎 部 佳奈子 佐藤 幸平 非常勤講師
11	歯周外科 歯肉切除術	歯肉切除術は増殖歯肉のポケット減少、除去を目的として行う方法であることを理解し、その術式を実習する。 PCT顎模型をマネキンにつけ歯肉切除術の実習を行う。 (E-3-3)-(3)-)	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 森 真理 加藤 幸紀 清水 伸太郎 部 佳奈子 佐藤 幸平 非常勤講師
11 { 12	歯周外科 1. フラップ手術 2. 歯槽骨整形術 3. ヘミセクション（歯根分割除去	フラップ手術は歯肉弁を形成して行う歯周外科手術の基本であり、歯槽骨整形や切除、骨移植、GTR法、歯根分割除去法などの処置を実施するために不可欠な歯周外科術式であることを理解し、その術式を実習す	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 森 真理

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	法)	る。 (E-3-3)-(3)-) PCT顎模型をマネキンにつけフラップ手術の実習を行う。 PCT顎模型をマネキンにつけ歯槽骨成形術の実習を行う。 PCT顎模型をマネキンにつけヘミセクションの実習を行う。	加藤 幸紀 清水 伸太郎 薮 佳奈子 佐藤 幸平 非常勤講師
13	歯周外科 GTR法	PCT顎模型をマネキンにつけGTR法の実習を行う。	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 森 真理 加藤 幸紀 清水 伸太郎 薮 佳奈子 佐藤 幸平 非常勤講師
14	歯周治療計画の立案	様々な歯周病患者を想定し、実際の治療計画を立案し、討議を行う。 (E-3-3)-(3)-)	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 森 真理 加藤 幸紀 清水 伸太郎 薮 佳奈子 佐藤 幸平 非常勤講師
15	総合演習	歯周治療学実習における、コミュニケーション実習と基本的手技・操作のまとめを行う。 (B-2-2)- 、E-3-3)-(3)-)	古市 保志 長澤 敏行 門 貴司 森 真理 加藤 幸紀 清水 伸太郎 薮 佳奈子 佐藤 幸平 非常勤講師

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

[歯周治療学（前後期実習）評価方法]

実習到達度（80％）実習前小テスト（20％）

・〔判定法〕前期分の評価1に対し後期分の評価2の割合で評価し、60点以上を合格とする。

【教科書】

「第3版臨床歯周病学」（医歯薬出版）

「歯周治療学実習書」北海道医療大学歯学部歯周歯内治療学分野 編

【参考書】

講義配布資料

【学修の準備】

実習開始前は、事前に実習書の該当ページを読み、実習内容を理解する（30分）。

該当する実習の講義内容を教科書・配布資料を読んで復習する（30分）。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために、歯周疾患の診断・治療法を学修する（専門的実践能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を歯内療法学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を歯周治学の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を歯周治療学の観点から修得する（社会的貢献）。

【実務経験】

古市 保志（歯科医師）、長澤 敏行（歯科医師）、門 貴司（歯科医師）、森 真理（歯科医師）、加藤 幸紀（歯科医師）、清水 伸太郎（歯科医師）、部 佳奈子（歯科医師）、佐藤 幸平（歯科医師）、非常勤講師（歯科医師）

【実務経験を活かした教育内容】

歯周治療学は、歯周疾患の治療を通じて口腔機能の回復の意義と全身の健康に寄与する科目であることを理解する。学術的根拠を背景とした診療の実際について学ぶ機会である実習において、臨床実務経験のある教員を配置することで、歯周治療学に関する優れた教育成果をあげることが期待できる教育内容である。